

三里塚闘争をめぐる京文学生運動の「混乱」 についての我々の原則的立場

全ての学友諸君！

去る6月20日月曜、我々同学会が築きあげてきた全学自治運動の中で、革共同中核派の諸君が行なった行為は、自治運動の原則に照らして、全く誤ったものである。その結果、これまで同学会運動を最先頭で担いぬいてきた同志の1名が、不本意ながら、一時戦線から離脱せざるをえなくなったことに対し、我々は憤りを禁じることができない。闘う者同士の原則を逸脱した20日の行為に対し、共に闘う者として断固たる批判を表明する。

★ 三里塚空港を廃港へ！

農民を中心に非妥協不屈の闘争闘争として闘われ続けてきた三里塚闘争は、全国の闘う労働者学生的心を魅きつけてきたし、倉庫あふれる行農営の共同闘争として日本階級闘争の新たな地平を最先頭で切り拓いてきた。その三里塚闘争が、18年目にして大きな転機を迎えようとしている。暫定開港以後、政府-空港公団は二期攻撃を強めるとともに「話し合い」攻撃、成田用水攻撃といった新たな戦術に比重をおさはじめた。これに打ち勝つために、いかにして反対同盟の組織を強化し、闘う農業を建設してゆくのか、また、闘争主体である三里塚農民と我々支援との共同関係のあり方等々が鋭く問われることになった。これを背景に、「一坪両共有化運動」という戦術をめぐる討論を契機として、反対同盟、全国の支援が「分裂」という事態を迎えてしまったのである。

我々は、奪われた農地を奪還し、空港を廃港に追い込むための具体的な運動の展開と、全国的な起りのある討論によって、早急にこの事態を克服し統一と団結を回復しなければならぬと考える。三里塚農民に対し、「脱落派」等々のレッテルを貼り、方針の違いを暴力で解決しようとするような作風は、「分裂」を固定化しこそすべし、新たな団結に資するものではない。

こうした観点からみて、今回20日を頂点とする中核

派の諸君の京大学生運動内での行動は、開かれた討論、相互批判と自己批判により、正しい方針を練りあげてゆく、という方向性を全く欠いていたと言わざるをえない。

★ 同学会運動の深化、発展を克ちとろう！

現在未曾有の政治経済的危機に突入した日本は、ファシスト中曾根をおしたて、侵略戦争に向けた再編攻撃を国内のあらゆる分野で推し進めている。教育においても、学制改革まで射程に入れた大規模な再編が目論まれている。教科書攻撃、放送文学設置等による教育への国家主義イデオロギーの注入、受益者負担の原則の貫徹が狙われるとともに、高等教育においては産学協同、闘う学生運動解体のための治安管理強化等が進行している。

我々は、京文学生運動固有の任務として、ブルジョアジーの死活を賭けた全国的な文学再編攻撃の一環として京文にあらわれた具体的矛盾を、実践的課題として設定し、できる限り広範な大衆運動として闘ってきた。竹本史平紛争闘争を闘いぬき、S君の教育希望を克ち取り、熊取乙号伊の設置を阻止し続け、党内治安管理強化に有効な歯止めをかけ、闘争に連帯する自治運動を創りあげてきた。

同時に、学園において築きあげた大衆運動の力をもって、日韓、姥山、三里塚闘争をはじめとした全人民の闘争課題との目的意識的かつ豊かな結合を克ち取るために闘ってきた。

我々は今後、三里塚闘争においては、二期着工を阻止し、現空港の既成事実化を許さない具体的な闘いを推し進めると同時に、路線をめぐる人民内部の矛盾を正しく解決するために力を尽す。また今後とも同学会運動への無原則な対応に対しては、原則的自治運動の更なる高揚により、答えてゆくださう。

共に闘わん！

京文全学自治会同学会書記局